



# 島熊山能面祭 図録

平成二十五年度 第七回

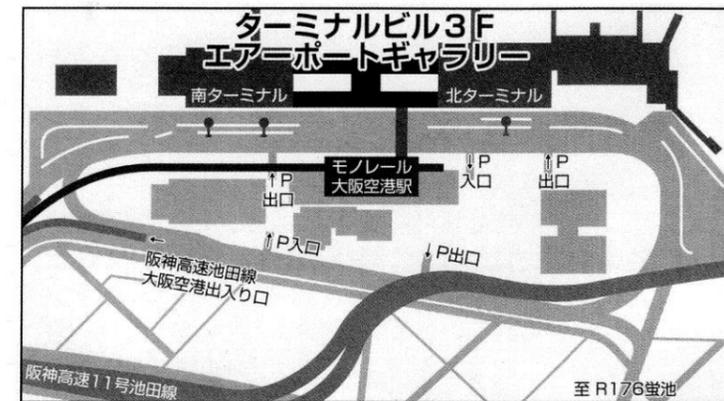
主催：島熊山能面祭実行委員会

後援：豊中市・豊中市教育委員会 協力：豊中不動尊  
第七回島熊山能面祭大賞作品 梅若玄祥賞「山姥」 川上堯由  
大槻文蔵賞「深井」 伊庭貞一

## ◆能面展

平成25年8月30日(金)～9月2日(月)  
午前10時～午後5時(最終日は12時迄)  
大阪国際空港(伊丹空港) ターミナルビル  
3F エアポートギャラリー

大阪市豊中市蛸池西町3丁目555番地



## ◆島熊山桜能 「安達原」

平成26年春 豊中不動尊

大阪府豊中市緑丘2丁目14番8号

※今回の島熊山能面祭受賞作品で舞う能です。

演目、日時の詳細は <http://yuugen.net/index.html>

豊中不動尊へのアクセス

- 新大阪駅・大阪駅から地下鉄千里中央駅下車
- 千里中央駅から9.10.45.49系統バス豊中不動尊下車(約5分)



## ◆お問い合わせ

島熊山能面祭実行委員会

<http://www.shimakumayama.yuugen.net/>

[mail:mai@yuugen.net](mailto:mai@yuugen.net)

# ごあいさつ

第7回島熊山能面祭にご応募いただきありがとうございます。

今回は全国30都府県より240面の応募をいただきました。その中には、面打ち歴5年以内の新人が29名、今回初めて応募いただいた方が54名おられました。

応募数の増加は、「後世に残る優れた新作面の発掘と面打ちへの支援」を目的に質の高い能面コンクールを目指してきた結果だと喜んでおります。合わせて、今年は島熊山能面祭「優秀能面作家」登録制度の発足と「推薦枠」部門を新設することで、皆様に新たな目標と「能楽師が舞いたくなる能面」に近づく大きな一歩を踏み出す事ができたと思っています。

今回も梅若玄祥・大槻文蔵先生はじめ、能楽師の先生方に多大なご協力をいただきました。能楽師のみで全ての作品を一つ一つの手にとって厳しい審査とコメントを付ける大変な作業を快く引き受けていただきました。改めて感謝しお礼申し上げます。

能面は舞台上で使われるのが本来の役割です、その目標に向かって日々努力されている全国の面打ちの皆様にご敬意を表したいと思います。実行委員会は作品を正當に評価する能面祭を通じて、全ての面打ちの方々のレベルアップに少しでも貢献したいと考えています。

島熊山能面祭実行委員会

## 審査員総評

### 一般部門

応募作品は増えましたが基準を落とさず厳正な審査をした結果、入賞作品は少なくなりました。選外にも技術的に優れた作品もあり、奨励賞との差はほんのわずかで審査員を悩ませました。少しの手直しで舞台上で使える能面もたくさんありました。

技術的に低いと思われる作品にも表情が豊かで良い面がありました。ベテランは写しに慣れて、訴えるものが弱い作品になる傾向が見受けられます。もう一度面の持つ特徴・使われ方・曲目をしっかりとつかみ、単に型や彩色、傷などを写すのではなく表情を重視してください。

左右が同じで変化しない面や、重く裏面の彫が悪い面も見られます。古色も衣装とのバランス上必要ですが、付け過ぎて黒くなってはダメです、特に女面は注意が要ります。能楽師が面を着けるとき、顔にまっすぐにつけません、少し曇らせ気味につけますが、面が下を向いてしまい舞台では使いづらい面がありました。色も大切ですが彩色ばかり気にして彫や角度をおろそかにしないようにしてください。沢山の古面を見てください、そして実際に舞台上で能を観てください。舞台上で能面が息づき動き変化するさまを体験し、能と能面のすばらしさを体感してください。

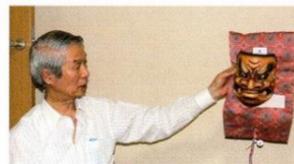
### 推薦部門

「能楽師が使いたくなる面」と「舞台上で使える面」とは大きく違います。推薦部門の作品は、さすがに良くできた作品ばかりで、舞台上で充分使えます。しかし、残念ながら「優秀能面作家」に期待する「能楽師が使いたくなる面」と云うレベルには至っていません。過去の受賞作品と比べても期待に応えられているとは言えません。技術も高く、面をその通り写しておられるのですが、単なる写しになってしまい、面の持つ表情や強さなどが写されておらず、引きつけられるものはありません。冒険がなく一皮むけていない感じです。全体的に眼に力強さがなく、作品への思いが感じられません。良くできているだけに、この先の一歩が難しいのでしょうか。

面打ちにも得手不得手があります、自分の得意分野で粗製乱造にならず一つ一つに集中して、「あと一歩の壁」を打ち破っていただくことを期待します。



梅若玄祥 先生



大槻文蔵 先生



山崎正道 先生

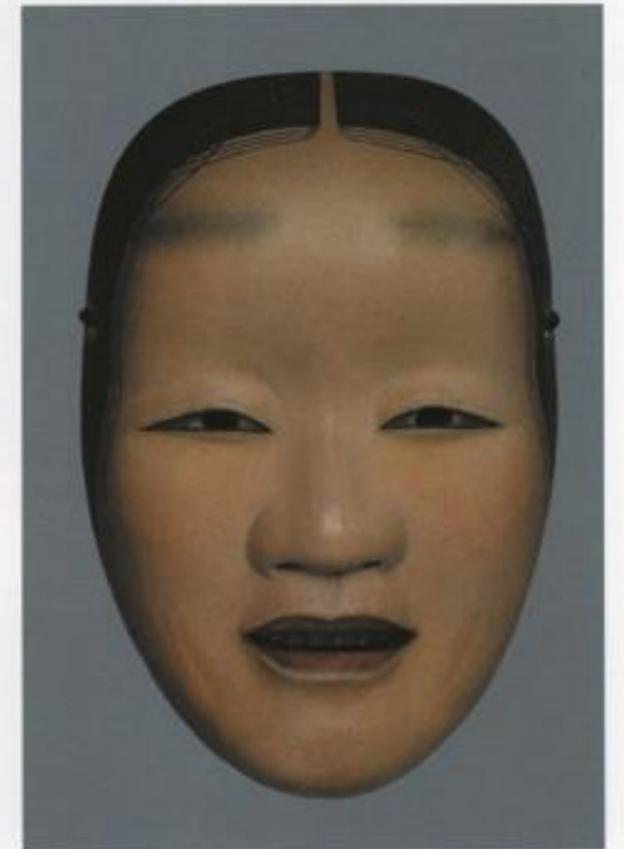
## 大賞

### 梅若 玄祥賞



「山姥」 川上堯由 (愛知県)  
特別賞

### 大槻文蔵賞



「深井」 伊庭貞一 (滋賀県)

### 豊中市長賞



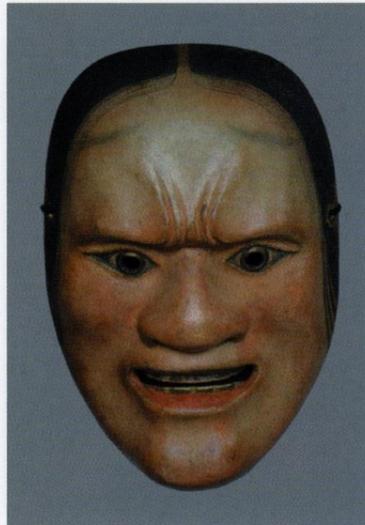
「中将」 関東秀康 (大阪府)

### 豊中市教育委員会賞



「増女」 谷宜子 (滋賀県)

審査員特別賞

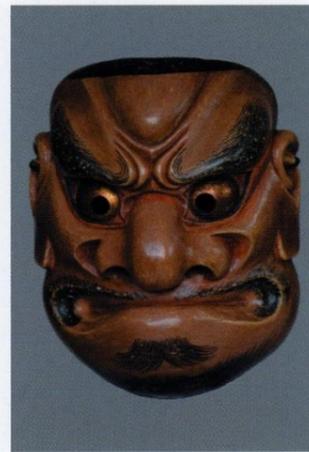


「橋姫」坂井孝（愛知県）



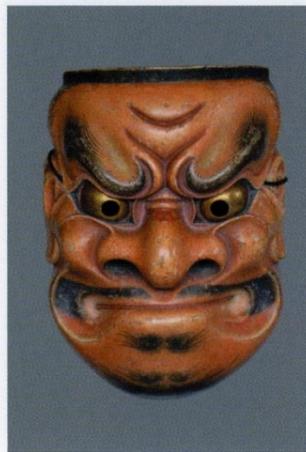
「神体」立錦祥元（広島県）

優秀賞



「中癡見」  
平野親義（福岡県）

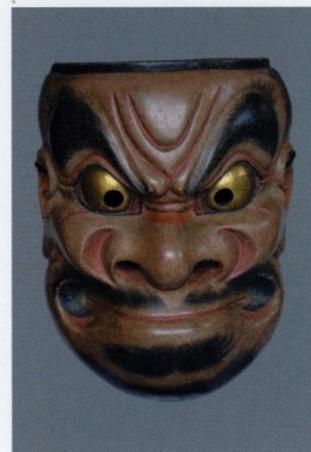
優秀賞



「大癡見」  
関東秀康（大阪府）



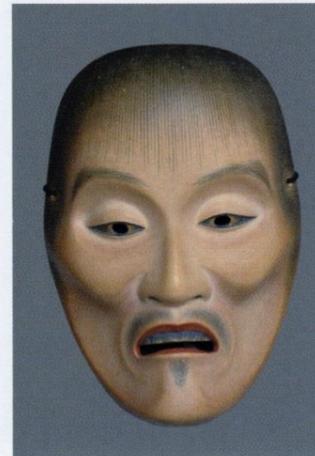
「黒髭」  
岩崎拓治（兵庫県）



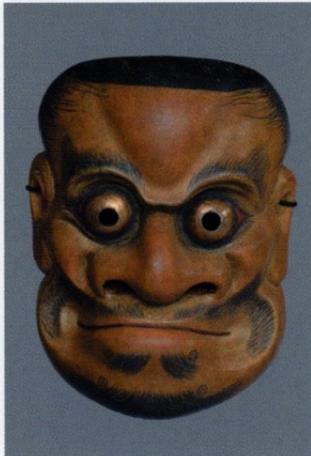
「黒癡見」  
岩崎拓治（兵庫県）



「泣増」  
田中通義（福岡県）

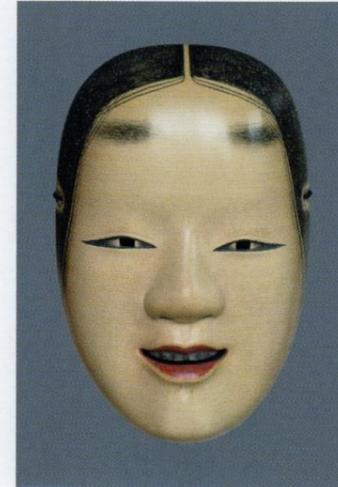


「二十余」  
鈴木康志（静岡県）



「長霊癡見」  
福瀧一也（兵庫県）

最優秀新人賞

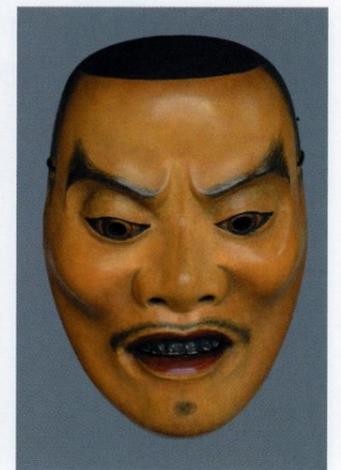


「節木増」  
海老原彰（鹿児島県）

優秀新人賞



「顰」  
石田浩（静岡県）



「千種怪士」  
松尾茂生（滋賀県）

奨励賞



「石王慰」  
川井郁司（兵庫県）



「宝増」  
池谷幸喜（山梨県）



「若女」  
眞野恵子（福岡県）



「小面」  
松本二三年（福岡県）



「小癡見」  
塚田和夫（大阪府）



「鷹」  
小熊正（東京都）



「慈童」  
坪西國廣（福岡県）



「祖母」  
山本益穂（兵庫県）



「大悪尉」  
山縣徹（大阪府）



「三日月」  
井裕博（和歌山県）



「猩々」  
大橋庄一（滋賀県）



「邯鄲男」  
宮根浅五郎（埼玉県）



「中将」  
宮根浅五郎（埼玉県）



「万媚」  
井上欣一（長野県）



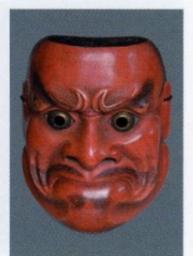
「蛙」  
古濱伊津子（奈良県）



「増女」  
小林利夫（滋賀県）



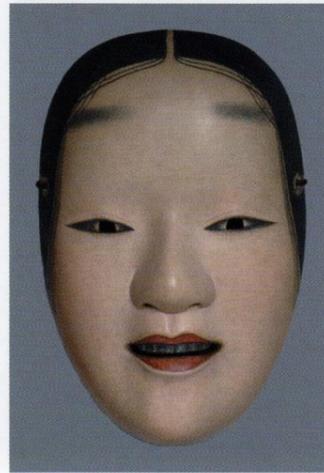
「霊神」  
大南真（兵庫県）



「小癡見」  
大南真（兵庫県）

## 各受賞能面評

### 推薦枠



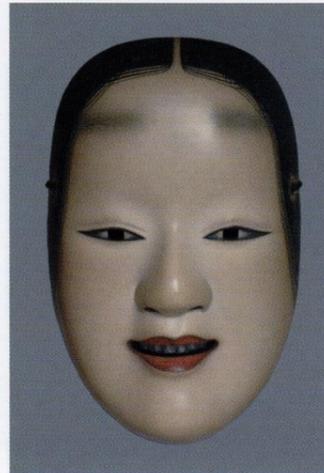
「宝増」  
貞光 康子（福岡県）



「三日月」  
原田 ちよ子（愛知県）



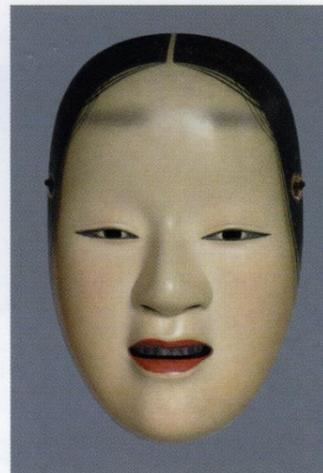
「孫次郎」  
藤田 修三（兵庫県）



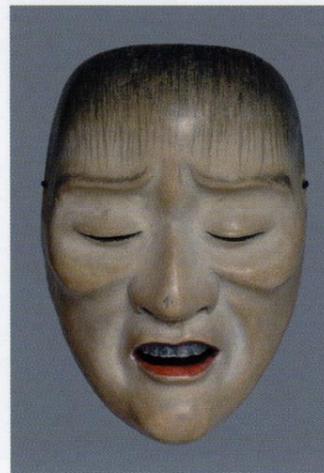
「逆髪」  
田水 満（大阪府）



「小面」  
相良 悟（福岡県）



「増女（雪）」  
住村 太（福岡県）



「弱法師」  
藤本 重廣（大阪府）

### 審査風景



小笠原匡 先生



山本博通 先生・赤松禎英 先生  
武富康之 先生の各先生

**梅若 玄祥賞** 「山姥」 川上 堯由（愛知県）  
本面の感じを良く写しています。安達原などの曲にも使えます。この面は猿顔になりやすいのですが人間として表情がちゃんと写されています。何より女が表現されているのが良い。大変良くできた面です。

**大槻文蔵賞** 「深井」 伊庭 貞一（滋賀県）  
かなり良くまとまっています。色も良い。深井は子供が生きてほしいとの期待も持っており、はじめから寂しい悲しい顔ではないのです。この面はその意味を含んだ表情が良く出たととても良い面です。

**豊中市長賞** 「中将」 関東 秀康（大阪府）  
中将系の面は表情が難しく、良い面が少ないのですが、この面は色彩も彫も良く修羅物に使えます。ただ、鉢巻をすると可愛くなってしまいます。鉢巻やかしらをつけることを想定し表情を考えてください。少し重い。

**豊中市教育委員会賞** 「増女」 谷 宜子（滋賀県）  
良くできた作品です、舞台上で使えます。特に目の表情は良いと思います。口から下の表情に少し生身の女が出ています、増女は天冠下の神の女に使いますので、清らかな品位があって端正なほそおもての顔が特徴です。顎が少し太すぎるのでシャープにしても良いと思います。

**審査員特別賞** 「橋姫」 坂井 孝（愛知県）  
「鉄輪」などに使いますが、ちょっと優しすぎます。彩色はもう少し濃いほうが良いでしょう。橋姫は強いと云う意見もありますが、「海女」では母性の表情の柔らかさも必要です、その意味で柔らかさを出している点は良いと思います。

**審査員特別賞** 「神体」 立錦 祥元（広島県）  
良い色です。口の赤さが気になりますが、全体の彩色とは調和しています。ただ、神体はさすがに品格の高い神の面です、この面は強すぎて神体より怪士系の曲に合うでしょう。顔の中心に力が集中して良いのですが、眼が下を向いており、スケールに欠けます。

**優秀賞** 「中癒見」 平野 親義（福岡県）  
良くできています。天狗として使えます、彩色も良く力強さもあるのですが、鼻がもう少し大きければもっと良かったでしょう。左目が中に向いていません、目の角度は表情に影響します。ちょっと重い。

**優秀賞** 「大癒見」 関東 秀康（大阪府）  
十分使えます。彩色も良い、大癒見には作りが小さいが、引き締まった強い良い顔をしています。びっくりしたような顔に見えるのは、金冠が少し大きいのでしょうか。視線の向きをもう一工夫してください。紐穴も工夫してください。

**優秀賞** 「黒髭」 岩崎 拓治（兵庫県）  
彩色は良く舞台上で十分使えます。しかし、龍といえども神様であり化け物ではありません、神の品がもう少し必要です。眼が離れ中に寄って、右目が少し上を向いています。顎の作りも少し気になります。表情の難しい面です。

**優秀賞** 「黒癒見」 岩崎 拓治（兵庫県）  
彩色も良く舞台上で使えます。一つ一つは良く出来ているのですが、目が離れて集中力を欠き強さが削がれています。舞台では赤や黒の頭を付け、その隙間から顔が見えるので、彫りはもっと強いほうが良いでしょう。

**優秀賞** 「泣増」 田中 通義（福岡県）  
良い作品です。彩色も良いし彫りも上手です、舞台上で充分使えます。ただ目は良いのですが少し弱い。泣増は増女の端正な表情をさらに強調し憂いを持たせている面です。口は増と云うより若女のように見えます。舞台上でどう変化するのでしょうか？

**優秀賞** 「二十余」 鈴木 康志（静岡県）  
二十余は「藤戸」に使います、その役からは口が弱く、恨めしさをもっと出して欲しい。すっきりして品も良いのですが、二十歳程にしては年がゆき過ぎています。髪の毛がきれいすぎる。舞台上で使うとしたら、品の良い「通小町」でしょうか。

**優秀賞** 「長霊癒見」 福瀧 一也（兵庫県）  
彩色も良い、長霊癒見はお化けはダメで人間性が必要です。この面は表情も良いし滑稽味も出ています。曇らした時に力が出るかがこの面の勝負どころですが良いと思います。裏のあたりも重さも良い。しかし、左目が少し上を向き、目と周りの彩色の境目がなく眼がぼけています。

**最優秀新人賞** 「節木増」 海老原 彰（鹿児島県）  
良くできており舞台上で使えます。彩色も上手です節木増の理性的で品格のある清楚な顔立ちが良く表現されています。特に眼の表情は良いのですが、鼻から口にかけてと顎のつくりには細心の注意を払ってください。